

九州大学考古学研究室の記録Ⅲ：考古学研究室65周年記念

宮本，一夫
九州大学大学院人文科学研究院

高久，健二

金，宰賢

岡田，裕之

他

<https://hdl.handle.net/2324/7170825>

出版情報：2024-03-09. 九州大学大学院人文科学研究院考古学研究室
バージョン：
権利関係：

序

2018年9月に九州大学伊都キャンパス統合移転が完了し、大学院人文科学研究院歴史学部門考古学講座も箱崎キャンパスから伊都キャンパスのイースト1号館に移った。この年は、九州大学考古学研究室開設60周年の記念すべき年であった。その年の4月にイースト2号館に移転していた大学院比較社会文化研究院基層構造講座とともに、伊都キャンパスで九州大学考古学研究室として、新たな活動を始めたところである。

しかしながら、2020年に始まる新型コロナ感染症拡大により、教育・研究に大きな支障を来した。この間、授業や学会活動をオンラインで行い、この難局を乗り越えてきたところである。しかし、会話を含めた友人や教師との接触がない状態は、学生生活に大きな精神的な負担となったことであろう。とりわけ実習などはオンラインでは実施できず、実習発掘も延期せざるを得なかった。フィールド調査や共同調査を基とする考古学にとって、人との接触ができない状態は、学習・研究に大きな妨げとなっていた。

2023年5月に、新型コロナ感染症も感染症2類から5類へと移行することにより、本格的なポストコロナ時代が始まっている。考古学研究室の様々な活動も元に復しつつある。学会などはオンライン併用で開催し、より多くの参加者を得て活発な議論が行われているように思える。また、国際会議など海外との対面での交流も、韓国を中心に本格的に再開し始めてきている。

私事ではあるが、私は来年3月末を以て退職することとなった。『九州大学考古学研究室の記録Ⅱ—考古学研究室60周年記念—』では、私が九州大学に赴任した1994年より前までの記録を残した。九州大学に赴任した30年前は、大学院比較社会文化研究科が設立された年でもある。ここに『九州大学考古学研究室の記録Ⅲ—考古学研究室65周年記念—』と題して、この時期以降の助手や助教の方に当時の考古学研究室を語っていただいた。私もこの30年間のフィールド調査を振り返り、この30年間の考古学研究室の記録とするところである。この間、九州や中国・モンゴル・ロシア沿海州で発掘調査を実施することができ、研究成果をあげることができたと思っている。この30年間の皆様のご厚情に感謝するところである。

卒業生の皆様には、九州大学考古学研究室へ引き続きご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2023年12月25日

九州大学大学院人文科学研究院歴史学部門考古学講座

宮本 一夫